

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493300162	事業の開始年月日	平成24年4月1日
		指定年月日	平成24年4月1日
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 かもい		
所在地	(〒229-6-0003) 横浜市緑区鴨居7-1-9		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成25年7月11日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お1人お1人の出来る力を大切に、その方が落ち着いて生活が出来るようにお手伝いさせていただきます。日々の散歩、近隣のスーパーへの買い物など、外に出る機会を増やして季節を感じて頂いております。また、お1人おひとりにご要望をお伺いし、お墓参り、デパートで買い物、外食など個別対応を重視して、充実を図っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年3月29日	評価機関 評価決定日	平成25年6月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR鴨居駅からバスで5分の「鴨居6丁目」で下車、徒歩3分の場所に所在する。閑静な住宅地の一角にあり、事業所前の道路が広く近隣に公園やスーパーマーケットもある。広い前庭がある木造2階建てで、エレベーター付きの日当たり良好なグループホームである。</p> <p>【利用者の希望をかなえる計画実現をめざす】 入居者のできることに、日課になっていること、やりたいことを大切にしている。包丁を使う、洗濯する、事務室で紙を切る、花の手入れをするなど、なるべく入居者の行動に制限を加えず、自宅にいる時のように自分のやりたいことができる「夢かなえ計画」を進めている。</p> <p>【入居者は職員の鏡である】 職員が笑顔で心かけると入居者も生き生きとした表情をするようになる。事業所では先輩・後輩や経験の長短に関わらず、職員の意見や提案を聞き、「まずやってみる」という積極的な姿勢があり定着している。お互いの信頼感があるので職員の離職が少ない。 フロアの施錠はしておらず、事務室も開放している。入居者のフロア間の行き来は自由で多い。利用者の仲が良いので笑顔の会話が弾んでいる。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 かもい
ユニット名	1 F

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	花物語 かもい
ユニット名	2F

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・ご家族・地域の方々とコミュニケーションを大切にしている。理念は各フロアに掲示している。	2012年4月開設にあたり管理者が「すべての方が安心して暮らせるように」との思いを込めて作成した。入職時に職員に渡すマニュアル「業務覚え書き」の表紙に載せていつでも確認できるようにしている。毎月のフロア会議で、自分たちの支援が理念にそっているか、振り返りを行っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、町内の催しの参加や回覧板を回したりなどしている。	鴨居第7地区自治会に加入して「どんど焼き、もちつき」に参加している。獅子舞を事業所に呼んだ。事業所主催の「秋祭り」には家族や近隣住民を招待した。ボランティアとして歌、ハーモニカ、利用者の家族によるギター、尺八の演奏などがある。利用者は散歩や事業所前での花壇の手入れ中に、近隣住民とよく挨拶や立ち話をす。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところ具体的な支援の方法を地域の方へお伝えはしていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告だけではなく、参加者からの意見や要望などいただいている。	今年度の開催は7、8、12月の3回だった。参加者は、民生委員、鴨居ケアプラザ職員、近所の居宅介護支援事業所ケアマネジャー、利用者とその家族、職員である。内容は、空き情報の提供や運営についてなどであった。	会議の回数を徐々に増やすことと、内容の充実が期待されます。事業所から防災や行事について地域への要望を具体的に伝えるとともに参加者の意見をうかがい、情報交換を行い、協力いただくこと、また協議内容をきちんと議事録にまとめることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者受け入れ情報や書類提出じに指導を受けたりしている。	入居の問い合わせや生活保護の相談で緑区役所高齢福祉課と連絡を取っている。事業所内部で行った感染症についての研修に使う「手洗いチェッカー」の器具を借りた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内でのスタッフ研修やミーティング等で理解を深めるように取り組んでいる。	1階、2階のフロア間、ベランダ、事務所は施錠しないので、利用者は事業所内を自由に行き来している。ユニット間の交流は開所時から盛んである。安全のため玄関のみ、家族の了解を得て施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内でのスタッフ研修やミーティング等で理解を深めるように取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な学習機会を設けてはいないが、今後は外部研修への参加も含め職員間で話し合いを持っていく予定である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、重要事項の説明を十分に行い、ご理解いただいた上で契約をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望・意見を敏感に感じとり、ミーティングなどを通し、速やかに個別ケアに活かせるように取り組んでいる。	家族の来訪は平均して週に一回ほどである。家族の来訪が多いので普段の面会時に意見や要望を聞くことが多い。半年に一回、事業所からアンケートを行っている。家族会はいまのところ、作っていない。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談の機会を設け、個々の職員の意見交換や提案を反映させるように心がけている。	ミーティングで意見や提案を聞いている。職員からの提案は皆で話し合い、とりあえず一か月はやってみる。そうすることで職員のモチベーションアップにもなっている。職員からの意見を取り上げた事例として、夕食時間の変更や日勤夜勤の業務分担などがある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とは個人面談を行い、働きやすい時間、曜日を考慮して勤務していただいている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得支援制度や内部研修、外部研修についても受講の妨げにならないように勤務ローテーションを配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡会や勉強会の参加を奨励している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に当事業所がどのようなところなのか見学していただき、あるいはご自宅訪問時にご本人のご要望に耳を傾けるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの率直な意見に耳を傾けられるように、時間をかけて悩みや要望を伺うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族にとって今何が必要なのかを見極め、地域包括センター等とも連携し、適切な支援が出来るように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のご要望に耳を傾けつつ、共に支え合える関係作りを心がけている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者ご本人のご様子や、日々の暮らしぶりなどの情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力していただき、知人の来訪や外出し、生活圏内でのなじみの関係を維持できるように支援していく。	入居前の近隣の知り合いや友人、会社の元同僚などの訪問が多い。事前に家族に確認してから面会を受けている。あまり面会が少ない入居者には、家族に電話をして訪問を働きかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は皆さんリビングで過ごされることが多く、気の合った利用者同士会話が弾んだり、よい関係性が保てていると思う。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、ご家族からのご相談に対しては、きめ細かい対応ができるように心がけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者から随時お話をお聞きするとともに、お聞きしたことに対して、フロアミーティングの場などで把握・検討を行っている。	テレビや新聞などを見ていて話題になったことや雑談の中から、やりたいことや行きたい場所などを把握する。2月末から1対1の居室担当制にして、誕生日会や居室の掃除などの環境整備、家族へのお便りを毎月手書きで送っている。本人のなげない些細な一言を拾って、フロア会議で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や、生活環境など職員間で共有し把握できるようにこころがけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援記録への確実な記録と申し送りノート等の活用により、日々の暮らしの中での必要な情報の共有を全職員で行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員・看護職員・介護支援専門員それぞれの立場で利用者・ご家族からの意見を聞き、介護計画に反映できるようにおこなっている。	入居前の面談から利用者の状況をよく観察しアセスメント、モニタリング、申し送り、ミーティングで確認して介護計画を作成している。6か月後、または、状態変化や必要時にはその都度、介護計画を見直している。管理者、担当職員、フロア長、看護師、ケアマネジャーが携わっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録に記入したことや日々のケアによる気づきをフロアミーティングの席で共有し、個別ケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望により、介護保険の更新申請代行や通院・送迎など必要な支援は柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流や自治会の行事など充実させて行く予定です。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医はもとより、定期的な訪問診療に来ていただくケースもあり、医療関係との連携は密にとっている。	かかりつけ医利用者は4名である。精神科、整形外科が主で、家族対応が基本である。情報は家族を通じて把握している。協力医の往診は2週間に1回、歯科は毎週1回の訪問診療である。看護職員は協力医と一緒に往診し、連携している。協力医は認知症に詳しい。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。不在時には24時間のオンコール体制をとり利用者の状態について適宜報告し、指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院中も、ご家族や医療機関相談員との連絡や相談を行うよう心がけ退院時にはスムーズに受け入れが出来るようにしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応方法や受診・往診対応について、ご家族やかかりつけ医と連絡を取り方針の共有をしている。	入居時に法人の「利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針」を使って説明している。開所してまだ一年なので、入居者は自立度が高い。研修なども含めこれから準備を進めていく。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法については、フロアミーティングにて職員への周知を行っているが実践力を身につけるための訓練について外部の機関の利用も含めて定期的に行っていきたい。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所としての避難訓練を定期的に行っている。施設倉庫には水・食糧等の備蓄を行っている。	年に2回、内1回は夜間想定で避難訓練を実施した。利用者は参加しないので、職員が利用者役で役割分担を決めて行った。近隣の職員が多いので、有事の際はすぐに駆け付けられる。利用者3日分の水・食料などの備蓄がある。	できることならば避難訓練は利用者も参加して、夜間想定で実施することが望まれます。災害対策については運営推進会議の支援を得て、地域住民の参加、協力をお願いして実践的な避難訓練に取り組むことが期待されます。
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であるという認識をもって接しており、接遇については失礼のないように言葉使いには気をつけている。	苗字が名前に「さん」付けを徹底し、「ちゃん」で呼ぶことを禁止している。「ダメ! 違う!」などの言葉は使わないよう注意する。否定せずに、まずは「ありがとう」から始めることを心がけている。管理者は接遇を職員に伝えるのは難しいと認識している。	「その方の心の中にお邪魔する」、「ここに寄り添う姿勢」が認知症対応で一番大切なことだという認識を接遇研修などで共有し、実践されることを期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人からの申し出がある事に関しては職員の押しつけではなく、ご自身の意思を尊重し、出来る限りの自己決定ができるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちや状況を考慮して押しつけではない支援を行うようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の活用、起床時の整髪や利用者の心が弾むように洋服の声かけもやっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に調理を行い、味見をしたりしながら食事作りを心掛けている。行事やお誕生日会や手作りおやつの日を設け、利用者様のご要望に応じて手作りをしている。	普段はカロリーや栄養バランスの良い配食サービスだが、利用者の会話から食べたい物の話が出ると、職員、利用者で「串カツパーティー」、「すき焼きパーティー」、手作りおやつ「さつまいもの茶巾絞り」などを企画、調理して楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の状態を把握し、適切な提供が出来るように配慮している。水分についてはゼリーを作ったり、飲み物の種類を変えるなどしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員による声かけや介助などで利用者の口腔ケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者のご状態や排泄の習慣を把握し、自力の排泄が出来るように声かけやトイレ誘導をしている。	事業所独自の個人記録様式「お過ごし記録」で排泄パターンや習慣を把握し、声かけ誘導してトイレでの排泄の支援をしている。綿パンツで自立の方は10名、オムツの方6名である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認や事業所内外での散歩や体操を取り入れて行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合ではなく利用者本人の意向や当日のバイタルチェックによる身体の状態に合わせた入浴の支援を行っている。利用者の気分や希望の時間に入浴できるようにしている。	基本的には午後1日3名、平均週2~3回の割合で入浴している。希望により朝風呂をする方もいる。季節のゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいるが、今後はりんご、みかん、花などを浴槽に入れることを計画している。入浴しながら利用するには声かけなどを工夫し、時には職員と一緒に入ることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠していただくように、日中のお過ごしに配慮した活動や休息が取れるように支援している。また、夜間の定期巡回時に、室温・湿度や睡眠状態などを把握し、支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士の声かけ、ダブルチェックを行い、確認を重視し、服薬事故のないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの好みや趣味嗜好等を把握し、その方が力を発揮していただけるような役割を持っていただく。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出等、本人の希望に添って外出したり、季節感を味わう事が出来るようにドライブや外出をしている。	ほぼ毎日、雨でも傘をさして散歩に出かける。車椅子の方も一緒に午前中20～30分くらい、何か所もある近所の公園に行く。散歩に行きたくない方はドライブに誘い、道路沿いのスーパーマーケットで買物をする。行事の時は法人のコンピューター（運転手つきマイクロバス）を借りて皆で出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行っているが、近くのスーパーや商店で買い物を楽しむ事が出来るように付き添いの支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所設置の電話や利用の手紙のやりとりは、ご本人の希望やご家族のご意向に即して出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気大切に、季節の花などを飾り、落ち着く空間づくりと、室温・湿度管理をこころがけている。	玄関には利用者の活け花、カウンターやテーブルなどの共用空間にも生花を飾っている。廊下には顔写真入りのスタッフ紹介や行事の写真がある。リビングを含め全体的に間取りが広く、廊下は車椅子同士がすれ違える。敷地スペースは広く花壇の花も手入れが行き届いている。訪問日にも利用者と職員が手入れをしていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の相性を配慮した席順を用意しソファを利用してくつろいで過ごせるよう空間を提供している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の好みや馴染みのものを持ち込んでいただき、その方の居心地がよい環境作りに配慮している。居室の物品は定期的に整理し、使いやすいうようにしている。	居室のベッド、エアコン、照明、洗面台は備え付けである。写真、テレビ、ロッキングチェア、花を飾るなど様々な生活空間を工夫して作っている。居室前にはネームプレートと割り箸やロールピクチャーを使ったレクリエーション作品の飾りがある。居室掃除は日勤者が入居者と一緒に行う。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂や居室の表示について利用者に分かりやすく表示をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語りかもの

作成日 H25.6.18

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		運営推進会議を 2ヶ月に一度開催が 出来ていない	開催予定を予め 年間行事の中へ 組み込む	近隣の住民の立ち 参加がしやすいよう 日頃の行事に声かけし 土曜日を含まない 運指を回すため 情報交換なども行う	1年
2		近隣の立ち回り等に 参加した消防訓練 を行うようにした	消防訓練は消防署の 主導のもと行っているが 土曜日を含まない 体制を構築して支援を 頂くように強化し た	自治会の回覧板で 町内の立ち回りの訓練 内容を案内して 参加を依頼する	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。